

磐城時報

日五
編輯部 石城
印刷部 石城
發行所 磐城時報社
電話 二一三三
廣告料 一行十二字 計五十五錢
日刊(日曜除) 翌日休刊

平産婆看護婦校 三十一回卒業式

集立の五十七名

平市南町清野きよ女史經營
平産婆看護婦校第三十二
回卒業式は十六日午後二時
から舉行するが、卒業生は
左の如く、優等生は志賀
キヨノ(泉)佐藤ナホ(湯本)
田中はる(勿來)死登志子
(關南村)の四名である。

北支戦線から 無名の勇士が寄附

四倉町役場宛に去る十三日開催する。因に萬田氏は過
北支戦線より一通の無名の般歐米の商業界を視察し歸
大手紙が到着したので係員が朝した商業研究に造詣深き
久開封すると五圓が在中「少新進権威者である。」
藤々の金子ですが我が四倉町
齋後會に寄附します」と書
いてあつたが、差出人が不
審崎信用組合では此程開
明なので係の四倉役場員は
た理事並に監事會で事務理
目下無名の氏を捜査中であ
るが奇特な行爲だと町長は
感心してゐる。

△警崎信用増俸
消防組では十五日午前九時
より各戸のカマド及風呂場
等の検査、町内各所の消火
栓試験等を行なつた。

事變經濟 對策講演會

三月十五日午後七時より平
廣告研究會並に平商工會共
同主催にて森永ベルトナイ
ン課長萬田一治氏を招聘し
九名の避難死者を没したの
ため排水作業に一頓座
山田村風城炭礦の坑内出水
を來した。
この落磐を取除き愈々第
二斜坑の排水に取掛る豫
定だが、隨所に落磐が横
市役所に届け出た。

鳳城炭礦の死体 發掘覺束なし

排水作業中落磐

▲米共同販賣 石城
郡販賣聯合會に於ける去る
十一日の俵米共同販賣は出
荷九百二十一俵で一般の豫
想値は前回の保ち合ひと見
られてゐたが競札を開けて
見ると多くは見込み通りの
相場である、中に飯野倉庫
の百俵が商人間に豫て唱を
開けられた十三圓零が現は
れ左記七百三十二俵(八百八
九俵不調)の取引を見たが
米價は益もと下値は來まい
と語られてゐる。

庖丁で斬る 小名濱で漁夫の喧嘩

息子と同姓名の者から
お母さんと絶られる

小名濱町古港比佐勇氏方
口論の末傍にあつた庖丁
漁夫高倉庄次郎(二五)は去
月十五日番小屋の二階で同
僚の高野茂君と些細の事か
ら互に罰金二十圓に處され
た。

母親が吃驚

息子と同姓名の者から
お母さんと絶られる

茨城縣多賀郡黒前村大字高
原根本いのさん二男清治(一
十九)君は伯父に當る平市
白銀町根本作之助さん方に
居住し吉健鐵工所に通つて
組長谷川浩子さん外十五名
あるが、最近母イノさんに
の貯蓄會員は毎日の筆墨料
東京市神田區三崎町安保商
店方の根本清治といふ男が
三錢と成つたので此程町役
場を通じて國防基金にして
「あなたは私の生みの母と
親だといふ事を私を安保
商店に賣つた育ての親か
ら聞かされてゐました、
懐しくたまりません、
寫真を送つて下さい」
といふ手紙が届いたので驚
いて平に來て見ると眞當の
置の計劃があり財源關係で
子供は元氣であるので呆氣
行き惱み中であつたが今回
吉田前入山坑務所長の遺族
から此程思ひ掛けに際し若干

▲四倉竈検査 四倉
消防組では十五日午前九時
より各戸のカマド及風呂場
等の検査、町内各所の消火
栓試験等を行なつた。

湯本校に 兒童文庫

湯本及入山の兩小學校では
湯本校に
兒童文庫
「あなたは私の生みの母と
親だといふ事を私を安保
商店に賣つた育ての親か
ら聞かされてゐました、
懐しくたまりません、
寫真を送つて下さい」
といふ手紙が届いたので驚
いて平に來て見ると眞當の
置の計劃があり財源關係で
子供は元氣であるので呆氣
行き惱み中であつたが今回
吉田前入山坑務所長の遺族
から此程思ひ掛けに際し若干

▲ウジ退治獎勵
石城營業取締支所では春蠶
に備へ管内養蠶家の三月中
における必行事項として郷
組退治をあげ徹底的にこれ
を勵行して居る、同管内昨
年中の右被害は二割三分の
率を示し前年より三割の減
少だつたが同支所では退治
方法として次の二項を嚴守
するやうにと語つてゐた。
一、床下掃除一床下をよく
掃除し冬を越した郷組を
集めて焼殺すること。
二、郷組、蠶捕獲器の据付
け一床下の周囲を藁、板
などを以て密閉し右器を
据付けること。

佐川、草野 兩君村葬

佐川軍曹 昭和五年一月
十日入隊、同六年九月
満期に參加し同年五月五日
日警視廳巡查拜命、同九
年四月一日勳七等青色桐
葉章並に功七級金鷄勳章
下賜せられ同十二年九月
十七日應召兩角部隊に屬
し各地に轉戦、同十二年
十月二十五日午前十時中
華民國江蘇省三家村附近
に於て名譽の戦死を遂ぐ
(草野伍長) 昭和十一年
一月十日現役入營、同十
月十日一等兵、四月十七
日滿洲派遣の爲め征途に
就く、同十三年一月二十
七日滿洲國三江省通河縣
張老五先生南方二村無名
部落附近の戦闘に於て右
側頭部、左眼部骨折貫通
銃創を受け戦死、同十三
年一月二十七日伍長に任
官。

▲根本氏襲名 元平
市會議員根本品藏氏長男弘
氏は父君の死去により品藏
を襲名した。

優勝印高級ソロバン
ドンコ帳簿
デリカ人名簿
代理店
魁文堂
ウエル萬年筆
ムツリリニペン
ゼネラルカーボン紙

電話新設披露
此度電話百三十九番を新設致
しました御利用下さるよう御願ひ致
します。
四倉町字仲町
御料理 よし乃家
電話百三十九番

電話新設披露
此度電話百三十九番を新設致
しました御利用下さるよう御願ひ致
します。
四倉町字仲町
御料理 よし乃家
電話百三十九番

亡父品藏生前は格別の御懇情を辱うし誠に難有奉感謝候
今般に親儀亡父の名を襲ひ品藏を改名仕候就(は先代同様御交誼御引立を賜はり度乍畧儀以紙上御挨拶申上候
昭和三十三年三月

弘事
改名 根本品藏
福島縣平市月見町一三

産婆看護婦

生徒募集
願書締切 四月六日
修養年限 兩科を通じ一ケ年
平市元一丁目

新築校舎 平市楳植小路
石城産科看護婦學校
校長 鷹崎千代

魚清自慢のなべ料理
鳥なべ。ありなべ
よせなべ。ねぎなべ
かきなべ。はもなべ
あんこなべ
出前も迅速に致します

平三警憲署(通)
魚清食堂
電話六三三番

生徒募集

- 願書受付 三月二十日迄
- 1 本科(二ケ年卒業)一年百五十名
 - 2 裁縫専修科(二ケ年卒業)三年百名
 - 3 師範科(一ケ年卒業)二十名
 - 4 専攻科(一ケ年卒業)三十名
 - 5 本科裁縫専修科三年補欠入學若干名
 - 6 「附設」洋裁科(六ヶ月修了)若干名
- 詳細ハ學則請求ノコト
文部大臣 認可
藤田女學校
平市田町(電話三二八番)

魚沼オホムネ
ヒノマル凍魚

エビ マナヰ ノカサギ
白魚 カナヰ 立貝
甘鯛 貝焼

日本産産手特約(三三三)一六番
平製米會社
平市田町(電話五二八番)

新鮮な冷凍貝焼あります

大捷の春 獨特の珈琲とWEIN
紳士の喫茶店
サービス制(外拜請) グリル
平市銀座通り TIL 702

女店員募集
面白く真面目に安心して働ける給料制度です
委託本人お出下さ

互融會事業報告 十二月中

融通口數 八五〇口
融通金額 三三一九〇〇〇
滿期拂戻口數 八一〇口
滿期拂戻金額 四、三三〇、〇〇〇

概況 昭和三十一年一月末現在
會員數 八、九八六口
世帯數 五、八一五戸
積立金 一三、三三八、八七七
融通金額 一、五三、三八七
融通金回収高 七、九三、〇〇〇

滿期拂戻口數 七六五口
滿期拂戻金額 三、三五、〇〇〇

大平火災海上保險株式會社中央代理店
石城中小商工互融會
事務所 福島縣平市楳植小路一番地 電話五五五番

小名濱方部 湯本方部
小名濱町古港 湯本町天王崎
菊田方部 相原方部
植田町臺町 原町東一番町

吉屋
福島縣平市

明治生命 磐城代理店 山崎與三郎
電話(營業部専用)一〇番
(一般用)二七番
一級建築士 一九七五番

外科 花柳病専門
入院隨意
平市六丁目
木村外科醫院
電話三〇九番

内臓外科
工ツキス光線
産婦人科
長 安齋徹
醫學士 黒澤廣
平市田町
安齋醫院
電話四七五

診療科目
一般 齒科 補綴科 保存科
小兒齒科 齒列矯正科 齒槽膿漏科
口腔外科

中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
醫學士 西川 誠
平市田町(松月堂向)
電話五〇九番

吉田眼科醫院
市平紺屋町(電話六八番)
▽看護婦數名入用

花柳病科 泌尿器科 皮膚科
診療時間 午前八時ヨリ 午後九時マデ
平市田町(電話六九一)
江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎